金沢二水
図書館報
碧水

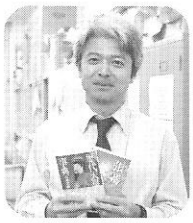
第36号
平成21年3月3日発行
石川県立金沢二水高等学校
図書委員会
金沢市緑が丘20－15
印刷　宮下印刷㈱

先生方からおすすめの本

●勝見文雅先生●

内田康夫、島田荘司、真保裕一、宮城谷昌光

普段本をあまり読まない人でも読みやすいような本の作家を紹介しよう。二時間ドラマにもなっている「浅見光彦シリーズ」で有名な内田康夫や、昨年度に日本ミステリー文学大賞を受賞した島田荘司、『ホワイトアウト』の作者であり、ドラえもんの映画の脚本を担当したこともある真保裕一らは、ミステリーやサスペンスに興味がある人にお薦めだ。宮城谷昌光は歴史小説作家で、一昨年までは古代中国の偉人を主に描いていたが、最近では管沼定盈や大久保彦左衛門といった日本の歴史上の人物にスポットを当てている。これらの作家の本は図書室にも置いてあるので、気になった人は足を運んでみよう。



●三藤加代子先生●

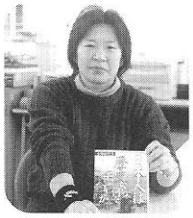
天使と悪魔
ダン・ブラウン
（角川書店）

『ダ・ヴィンチ・コード』の前作であるこの本は、今年の五月に映画化が予定されている。「宗教と科学の対立」をテーマに、今作品も二十四時間の内に事件が起こり解決するサスペンスとなっており、臨場感と緊張感に溢れた内容となっている。また、キリスト教世界に関する豆知識がたくさん披露されている。先生曰く、原作の方が面白いので原作を先に読んでほしいそうだ。ミステリー好きではなくても楽しめるので、多くの人に読んでほしい。

●灰田ゆき先生●

日本人は歴史から何を学ぶべきか
小和田哲男
（三笠書房）

この本には、日本史を学ぶ上で教科書の内容のみを鵜呑みにするのではなく、いろいろな方向から物事を見つめ考えることで、頭を柔らかくして歴史と向き合うことの大切さが述べられている。教科書に書かれているのは戦の勝者や政治を行った人物の歴史であるが、そこに書かれていることが全てであると考えるのではなく、敗者や同じ時代を生きた人々の目線に立とうとすることが大切である。日本史に限らず、歴史を学ぶ人には「歴史は一つではない」ということを知るためにも読んでほしい一冊だ。



●下根美代子先生●

M・C・エッシャー グラフィック
（ベネディクト・タッツェン社）

この本は、だまし絵で有名な版画家エッシャーの版画集である。建築不可能な構造物や、少しずつ変化するパターンで埋め尽くしたものなど、独創的な作品が多いのが特徴だ。

先生は特に、『天国と地獄』という作品がお気に入りだそうだ。この作品は、非ユークリッド幾何学のモデルに基づいて天使と悪魔が描かれている。他にも、鏡面や遠近法などを取り入れた不思議な作品がたくさん収録されている。どの作品からも数字を感じることができるそうだ。数学に興味がある人はもちろん、そうでない人にも読んでほしい一冊だ。

図書委員からのおすすめ

最も人気の高かったのは**乙一**である。幅広いジャンルを手がけている作家で、そのうちのいくつかは映画化もされている。ホラーが好きな人は**『夏と花火と私の死体』**、ミステリーが好きな人は**『銃とチョコレート』**、切ない話を読みたい人は**『暗いところで待ち合わせ』**がお薦めだ。

二番目に人気があった作家に、**太宰治**や**夏目漱石**、**芥川龍之介**といった古典の大御所が並んでいる。誰もが一度はその作品に触れたことがあるだろう。教科書に出ている作品に興味を持った人は、別の作品を読むのもいいかもしれない。

三番目に人気があったのは、**『バッテリー』**で知られている**あさのあつこ**、今年次々とその作品が映画化される**伊坂幸太郎**だ。**『バッテリー』**に夢中になった人には、**佐藤多佳子**の**『一瞬の風になれ』**、**三浦しをん**の**『風が強く吹いている』**をお薦めしたい。伊坂幸太郎の作品では、**『重力ピエロ』**を五月の映画化に先駆けて読んでおくといいかもしれない。